

## 報 告

## ジャパンパラアルペンスキー競技大会

特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟 平野 敦司

## 1. はじめに

ジャパンパラ競技大会（以下JP）は、現在夏冬合わせて5競技（陸上競技、水泳、アーチェリー、アルペンスキー、クロスカントリースキー）が開催されている。スキー競技は、1994年から始まり、現在は、公益財団法人日本障害者スポーツ協会と障害者スキーの統括団体である特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟（以下SAJD）が共催している。また、2012年より、名称が「ジャパンパラリンピック競技大会」から「ジャパンパラ競技大会」へと変更された。

## 2. ジャパンパラスキー競技大会の概要

JPスキー競技は、アルペンスキー競技（以下アルペンスキー）とクロスカントリースキー競技（以下クロスカントリースキー）を開催しており、アルペンスキーは国際パラリンピック委員会アルペンスキー部門（IPCAS）ポイントが獲得できる国際パラリンピック委員会（IPC）公認競技会となっている。アルペンスキーは、スーパーコンビ（SC、SGとSL各1レースの合計）、スーパー大回転（SG）、大回転（GS）、回転（SL）の4種目、クロスカントリースキーは、クラシカル（男女5km）、シット（男子10km、女子5km）、フリー（男子10km、女子5km）、シット（男子5km、女子2.5km）の4種目を実施している。

障害者スポーツは、障害の種類や程度によってクラス分けが行われるが、スキー競技の大きな特徴は、クラスごとの係数を実タイムに掛け合わせてリザルトを算出するパーセンテージ制を導入していることで、表彰は、立位（スタンディング）、座位（シット）、視覚障害、知的障害、聴覚障害の5つのカテゴリーごとに行っている。IPCでは知的障害と聴覚障害の競

技を実施していないが、JPでは日本独自のカテゴリーとして位置づけ実施している。

また、SAJDでは指定競技会の成績（タイム差）を元にSAJDポイントを作成し、ランキングをもとに強化指定選手（日本代表候補選手）を選考している。JPは指定競技会の一つとなっている。

## 3. 2012 ジャパンパラスキー競技大会

2012JPは、クロスカントリースキーが2月18日～19日に長野スノーハーパーで、アルペンスキーが3月22日～25日にオーストラリア、イランからの参加により「IPC アジアカップ」として長野白馬八方尾根スキー場で開催された。

アルペンスキーは、異常気象の大雪と雨のため、コースコンディションを考慮し、競技日程が毎朝のように3回も大きく変更され、GS、SC、SLの実施となった。GSは強化指定選手が順位を占め、男子立位では、小池岳太選手が1位井上真司選手に7秒の大差をつけ1分58秒73で優勝、3位には1本目4位の伊藤史雄選手が入った。



GS 優勝の森井選手（写真提供：エックスワン）

男子座位では、森井大輝選手が2位谷口彰選手に2分差をつけ1分58秒51で優勝、2012ワールドカップ総合優勝の実力を見せた。3位は狩野亮選手が2本目にラップをとり6位から逆転した。男子知

的障害では、2012 知的障害者世界選手権総合優勝の田川聰史選手が 2 分 19 秒 16 で優勝、2 位に木村嘉秀選手、3 位に加藤慎弥選手が入った。女子知的障害は松本馨代選手が 2 分 40 秒 48 で優勝。女子座位では、大日方邦子選手が 2 分 12 秒 91 で優勝、2 位は青木辰子選手、3 位には弱冠 16 歳の新鋭村岡桃佳選手が入った。男子視覚障害はオーストラリアのウォルシュ選手が 2 位田中千章選手に 28 秒の差をつけ 2 分 09 秒 46 で優勝した。

SC は、男子立位は小池岳太選手が 1 本目の SG のタイムを守り、2 分 01 秒 00 で 2 冠達成、2 秒 91 差の 2 位に井上真司選手、3 位に白藤友一選手が入った。



SC 優勝の山本光文選手（写真提供：エックスワン）

座位は、大波乱があり、2 本目の SL で有力選手の鈴木猛史選手、森井大輝選手、横澤高徳選手が次々コースアウト、狩野亮選手は 1 本目の SG で首を痛め 2 本目スタートできず、生き残りを制した山本光文選手が 2 分 02 秒 70 で 1 本目 5 位から逆転で優勝、2 秒差の 2 位に夏目堅司選手が、3 位には谷口彰選手が入った。男子知的障害は田川聰史選手が 22 秒差をつけ圧勝して 2 冠達成、2 位高橋順士選手、3 位阿部憲太郎選手だった。女子座位は青木辰子選手が 2 分 9 秒 80 で圧勝。女子知的障害は松本馨代選手が 2 分 51 秒 47 で優勝した。男子視覚障害は田中千章選手が 2 本目の SL でコースアウト、オーストラリアのウォルシュ選手が優勝した。

SL は、日程の関係で SC の 2 本面を SL の 1 本目とする形で行われた。男子座位は、鈴木猛史選手、森井大輝選手、横澤高徳選手ら有力選手が次々脱落、2 本目で谷口彰選手がコースアウトする中、夏目堅司選手が山本光文選手を逆転し 1 分 41 秒 04 で優勝。その差は、0.53 秒だった。3 位には山本新之介選



SL 優勝の夏目選手（写真提供：エックスワン）



SL 優勝の東海選手（写真提供：エックスワン）

手が 5 位からジャンプアップした。また、18 歳西勇輝選手が 5 位に入る検討を見せた。

男子立位は、怪我から復帰した東海将彦選手が 1 分 35 秒 24 で復活優勝を果たした。2 位小池岳太選手、3 位井上真司選手だった。

男子知的障害は、木村嘉秀選手が田川聰史選手の追い上げを 0.78 秒差でかわし 1 分 55 秒 31 で優勝、3 位に五味逸太郎選手が入った。男子視覚障害は、ウォルシュ選手が圧勝、3 冠に輝いた。女子知的障害は松本馨代選手が優勝。女子座位は大日方邦子選手が 1 分 54 秒 02 で 2 冠に、村岡桃佳選手が 17 秒差の 2 位に入った。

2012JP は、強化指定選手の強さが目立つ大会となった。と同時に、強化指定選手以外の選手との差が大きいことも浮き彫りとなった。これから選手育成、強化とともに、底辺の拡大を進めていくことが大きな課題として提示されたといえる。

公式記録の詳細は、公益財団法人日本障害者スポーツ協会、特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟のホームページをご覧ください。